

評 価 項 目		評 価	
A 普通教育を行う学校園として	I. 教育課程	1. 教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生に対しては新入生説明会、在校生に対しては全校集会・行事等で、保護者に対しては保護者会等で教育目標を十分周知させた。 ・アドミッションポリシーを平成26年度生徒募集要項に掲載した。
		2. 教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> ・新教育課程の意義に則り、適切な運用、実施に努力した。 ・授業の時程と3学年1月の授業のあり方について検討し、次年度からの改善方法を決定した。
		3. 年間授業日数・時数	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の意義を見据えながら、必要な授業日数・時数を確保するよう努力した。月曜日の授業を2回他の曜日に振り替え、授業時数を調整した。
		4. 教育活動とその成果	<ul style="list-style-type: none"> ・数学の授業において特別経費で配置された任期付き教員を活用することにより、少人数学級編成の授業を行うことで十分に成果を上げるなど、適切な教育活動を行った。
		5. 行事	<ul style="list-style-type: none"> ・輝鏡祭実行委員会を通して適切な指導・助言を行い、行事を企画・運営させた。事後の全校アンケートや各係、委員会の反省を踏まえ、来年度の運営や方針を定めるよう指導した。また体育祭実行委員会の指導は指導部の管轄であるが、来年度は体育科教員が主となる体制を試みることにした。
		6. 進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・部長と部員の役割分担を検討した。 ・卒業生本人からの進路データの収集を強化し、データベース化を開始した。 ・お茶大・東工大の高大連携に関する情報を整理・編集し、学年に提供した。 ・チューター(お茶大生・卒業生)による放課後の補習を行い成果を上げた。今後も定期的に実施することを確認した。
		7. 研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> ・公開教育研究会を開催し、日頃の成果を発表した。会の運営に際し、生徒の活動に好評を得た。 ・校内研修会では魅力ある学校づくりをめざして、関連するテーマを複数取りあげたが、深く議論できないとの意見もあり、検討の余地が残った。 ・大学と連携した授業研究等を例年通り進めた。 ・「確かな学力の育成に係わる実践的調査研究②学校図書館担当職員の効果的な活用方策と求められる資質・能力に関する調査研究」、「消費者教育推進のための調査研究事業」を円滑に進めた。 ・個人研究費を図書費・教材費・出張旅費などとして有効に活用した。
		8. 帰国国際教育	<ul style="list-style-type: none"> ・タイ王国国費留学生を対象とした補習を充実させ、タイ留学生(3年生)の進学に向けた書類作成などの指導を行い進学先大学を決定した。 ・英文書類の改訂を行った。 ・留学生送り出し、復学に関する事務手続きを適切に処理した。 ・生徒10名、教員1名が8/18～8/28にインドネシアで行われたイオン1%クラブ主催アジア・エコリーダーズに参加した。 ・生徒22名、教員2名が10/20～10/24に台湾を訪問し、台北市立第一女子高級中学と学校交流するなど、研修旅行を行った。 ・台湾研修旅行、アジア・エコリーダーズで海外研修の機会を提供した。また、事前指導、実施計画、事後指導など、国際交流事業を行う際に学校として行うべきことについての知見を得た。 ・グローバル人材育成プロジェクト準備WGを校内に立ち上げ、プロジェクト推進に向けて検討を開始した。
		9. 自治(会)活動の指導	<ul style="list-style-type: none"> ・執行部、各委員会、各部に対し、活動を充実させるよう指導・助言を行った。 ・自治会予算が適切に執行されるよう、執行部会、合議会、総会等を指導した。
		その他	<ul style="list-style-type: none"> ・後援会の協力により10人の学外講師を招き、授業や講演会を実施した。
II. 学校運営		1. 経営・組織	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営計画を立案し、重点目標を決定し、学校評価を円滑に行った。 ・企画運営委員会を17回開催し、安全管理マニュアルの改訂、内規の改定、グローバル人材育成プロジェクトの立ち上げを行うとともに、校務の整理等の課題について検討した。 ・PTA、教育後援会、同窓会等と連携して教育環境を整えることに努力した。
		2. 出納・経理	<ul style="list-style-type: none"> ・予算委員会、副校長、総務部を中心に、校費、運営基金、諸費用などの予算執行を適切に進めた。 ・創立130周年記念寄付事業を適正に運営した。寄付金を学校史資料等の保存などに使用した。
		3. 施設・設備	<ul style="list-style-type: none"> ・教育後援会の協力により、合併室の机の更新、校庭ベンチの改修を行った。 ・視聴覚機器選定WGを立ち上げ、教育効果の上がる視聴覚機器導入について検討を行った。 ・校舎及び体育館の大規模改修は実現の可能性がみられず、検討も進まなかった。 ・今年度は営繕要求の提出を求められなかったが、グラウンドの全面改修を営繕要求書として大学に提出した。
		4. 健康	<ul style="list-style-type: none"> ・学校保健安全計画に基づき、生徒の健康の保持増進ならびに安全教育に努めた。感染症やアレルギー疾患の予防教育の他に精神科領域に関してリテラシー教育に力点を置いた。 ・2回の生活会議において教員間の共通理解を図るとともに、スクールカウンセラーや精神科校医と連携しながら、個々の生徒に対する生活指導およびメンタル面の支援を適切に行った。 ・いじめ防止対策推進法に則り、いじめ防止対策連絡会に参加し、基本的施策について検討を開始した。
		5. 安全	<ul style="list-style-type: none"> ・PTAを中心に生徒と保護者の災害時下校班を組織し、PTA総会時に保護者の顔合わせ、避難訓練時に生徒の顔合わせを行った。 ・安全管理体制を見直し、防災備蓄倉庫3棟の防災用品リストと配置図、安全管理マニュアルの改訂を行った。 ・大学と連携して防災用井戸の掘削、マンホールトイレの設置、ソーラー外灯の設置を行った。また、大学全体の緊急メール連絡網システムに高校も加わることが決定した。 ・副校長が大学の防災対策WGの委員を務めた。 ・「生徒の健全育成に関する警察と学校との相互連絡制度協定」を締結した。
		6. 情報	<ul style="list-style-type: none"> ・大学の提供するシンクライアントネットワークを利用し、成績処理システムの構築と運用を進めた。 ・公式ホームページを大学のwebサーバーに移行して全面リニューアルし、広報コンテンツの拡充とセキュリティ向上を推進した。 ・校内無線LANを整備し、授業等に活用する環境整備を進めた。 ・校内のコンピューターとネットワーク環境の安全とトラブルに対する迅速な対応に努めた。 ・生徒の公式メールアドレスの使用を開始した。 ・生徒用ICチップ入り身分証明書を発行した。
		7. 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> ・18件の活動報告を更新するなど、全面改定したホームページを効果的に運用した。英語版のホームページを作成した。 ・6月と9月に2回学校説明会を開催した。第2回を輝鏡祭との同時開催として集客を図った。 (参加者数ー第1回: 186組 328名、第2回: 332組 609名) ・6月と11月に保護者授業参観を実施した。 ・第17回中学生向け理数体験授業を実施した。6講座に83名の中学生の参加を得た。 ・学校評議員会を2回開催し、学校運営に有益な助言を得た。 ・学校関係者評価委員会を2回開催し、学校評価について有益な助言を得た。
		8. 入学検定	<ul style="list-style-type: none"> ・入学検定を公正・適切に実施するよう努力し、実施した。 ・受検生の増加に合わせて受検会場の環境整備に努力した。
		9. 保護者との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA常任委員会や保護者会、学級懇親会等各種行事を通じて、保護者との意思疎通に努めた。 ・PTAと教育後援会の役員懇談会を実施し、両組織の理解と連携を図った。

		10. 学年活動	1学年・行事や部・同好会・委員会活動へ積極的に参加し、同級生・上級生と協調しながら取り組むよう指導した。 ・卒業生の話や茶大キャリアガイダンスを通じて、自分の将来像を考えることによって目標をもち、日々の学習に熱心に取り組む姿勢をもつよう、繰り返し働きかけた。 2学年・自治会活動や学校行事の中核としてリーダーシップを発揮し、すべての活動に創造力を持って意欲的に取り組み、集団の中に埋もれる事なく個性を発揮できる人材の育成を目指して精力的に指導した。 ・卒業生の話や茶大キャリアガイダンス等を行い、進路に対する意識を喚起するとともに、自分にふさわしい進路の実現に向けて、意欲的に学習に取り組めるように、きめ細かく支援した。 3学年・個人面談等一人一人の状況に合わせて指導した。 ・生徒各人が意欲的に授業に取り組む、最終学年にふさわしい到達目標を目指して努力するよう指導した。 ・最高学年として様々な場面で適切な行動がとれるよう支援した。
		その他	
B 大学の 附属 学校 園と して の 連 携	I. 大 学 と の 連 携	1. 連携研究	・大学及び附属校園との連携研究を適切に行うよう努力した。 ・大学関係の研究調査依頼が1件、大学の授業の一環として授業見学が1件あった。 ・高大連携実施委員会が5回開催され、高大連携特別教育プログラムの実施をはかった。追跡調査の方法について検討が行われた。 ・各教養基礎教科は大学教員とのカリキュラム研究を行った。 ・大学の公開授業をのべ48名の生徒が受講した。 ・「選択基礎」を5名が受講し、特別入試で5名がお茶の水女子大学に進学することになった。 ・今年度より「選択基礎」受講生に対し、TOEFLの受験を義務化した。 ・学校教育研究部の協力の下、附属高校生向けキャリアガイダンスは全学部で実施された。 ・5附属校園間の連携研究として7つのテーマによるグループが立ち上がり、14名が参加した。 ・大学院高度教育研究副専攻履修の学生3名を英語科・数学科・保体科が受け入れ、研究に協力した。 ・東京工業大学サマーチャレンジに3年生9名が参加した。特別選抜には3名が合格し、さきがけ教育を受講した。高大連携研究会を両大学のメンバーで組織し、高大連携教育研究の検討を行った。 ・お茶の水女子大、東京工業大学両大学との高大連携の流れ、生徒・保護者への説明内容を検討・整理し、まとめた。
		2. 授業交流	・大学や附属学校園との授業交流を適切に行うよう努力した。具体的事例として、家庭科2年生授業でナーサリー主任保育士、幼稚園副園長の特別講義を行い、ナーサリー・幼稚園を見学した。 ・教養基礎3教科・日本史・家庭科および総合的な学習の時間で、大学の教員による授業を実施した。
		3. 教育実習	・前期27名、後期23名の教育実習生を受け入れ、教育実習および事前・事後指導を通じて、教科指導の専門性や教員としての資質・能力を向上させるべく、指導に努めた。 ・文化祭や学校説明会の手伝いなどを通して、登壇実習以外の教員の職務を経験させ、実習をより有意義なものとした。 ・教育実習専門部会において実習生の実態を報告し、問題を未然に防ぎ、より有意義な実習となるよう、大学と附属で連絡を密にすることを確認した。
		4. 専門委員会	・各専門委員会に関係する研修会に積極的に参加し、専門委員会の活動が有効に機能するように努めた。 ・各専門委員会はその目的に沿って適切に活動した。附属学校園連絡進学WG、中高連絡進学検討会で連絡進学のあり方についても検討を行った。
		5. 大学の講義担当	・5教科8名の教員が教科教育法の授業を担当し、高校での授業見学も含め、本校での教育実習と連携し、その効果があるように実施することができた。 ・教科教育法以外にも6科目に7名の教員が授業を担当した。 ・教職実践演習の授業を副校長と養護教諭が担当し、保護者授業参観日に学生44名の学校見学を受け入れた。
		6. インターンシップ	・家庭科で1名、総合的な学習の時間(国際協力とジェンダー)で2名、情報科および学校図書館支援で5名のインターンシップを受け入れて内容の充実を図った。
		その他	
	II. 社 会 貢 献	1. 授業参観 研修生の受け入れ	・外部からの授業参観・学校訪問等を4件受け入れた。他に海外(タイ、サウジアラビア)からの視察も2件受け入れた。
		2. 公開教育研究会開催	・研究授業担当者の工夫と日頃の研究成果を社会に発信した。
		3. 初任者研修・現職研修	・学校教育研究部のラウンドテーブルに協力した。
		4. 途上国支援	2013年度該当なし
		5. 出版活動	・研究紀要を適切な内容で適切な時期に発行した。 ・研究紀要をお茶の水女子大学教育・研究成果コレクションTeaPotで閲覧できるようにした。
		6. 各種研究会への協力	・講師等派遣依頼が4件あった。学外からの研究調査依頼が5件あった。 ・学内外の研究会等に積極的に参加した。また、これらの団体に対し、施設貸与等も積極的に行った。 施設貸与:英語科関係(3)、全附連関係(2)、体育館等(4)、テニスコート(4)、その他(1)
その他		・タイ王国国費留学生への教育支援を進めた。	

平成25年度学校評価(自己評価)重点目標とまとめ

1. 帰国・国際教育(A-I-8)

イオン1%クラブ主催アジア・エコリーダーズに協力する。また台北市立第一女子高級中学国際交流を行う等、国際交流事業の実施を進める。
→生徒10名、教員1名が8/18～8/28にインドネシアで行われたイオン1%クラブ主催アジア・エコリーダーズに参加した。生徒22名、教員2名が10/20～10/24に台湾を訪問し、台北市立第一女子高級中学と学校交流するなど、研修旅行を行った。台湾研修旅行、アジア・エコリーダーズで学ぶ機会を提供した。また、事前指導、実施計画、事後指導など、国際交流事業を行う際に学校として行うべきことについての知見を得た。

海外でグローバル人材育成プロジェクト準備WGを校内に立ち上げ、プロジェクト推進に向けて検討を開始した。

2. 施設・設備(A-II-3)

キャンパスグランドデザインに高校の意見を反映するよう要求しつつ、老朽化した校舎・体育館の大規模改修の実現に向けて検討を行う。施設・設備充実のためのリストを作成し、大学に働きかけるなど順次実現に向けて努力する。

→校舎及び体育館の大規模改修は実現の可能性がみられず、検討も進まなかった。今年度は営繕要求を提出する機会がなかったが、グラウンドの全面改修については要求を提出した。生徒・保護者からもグラウンド・体育館改修の強い要望が出ている。

3. 安全(A-II-5)

防災対策を中心に、大学と連携して安全管理体制を見直し、その充実に努める。防災訓練を適切に実施するとともに防災用品の防災倉庫への機能的な配置を検討・実施する。生徒に対する安全管理に関する指導を適切に行う。PTAと連携して災害時下校班の組織化を試みる。

→大学と連携して、防災用井戸の掘削、マンホールトイレの設置、ソーラー外灯の設置を行った。また、大学全体の緊急メール連絡網に附属も加わることが決定した。3日分の食糧備蓄の目標に対し、不足分を昨年度から大学に要求しているが、今年度も配備が行われなかった。新入生オリエンテーションに組み込んだ池袋防災館での防災訓練に加え、教員が教室にいない時間帯の避難訓練を行うなど生徒に対する安全管理の指導を適切に行った。PTAを中心に生徒と保護者の災害時下校班を組織し、PTA総会時に保護者の顔合わせ、避難訓練時に生徒の顔合わせを行った。防災備蓄用倉庫3棟の防災用品リストと配置図を改訂し、安全管理マニュアルを改訂した。

4. 連携研究(B-I-1)

高大連携特別教育プログラムの円滑な実施・充実に努力するとともに、昨年のシンポジウムの結果を基に改善点を検討し、さらなる充実に努める。東京工業大学との高大連携教育研究を進める。

→今年度の高大連携プログラムの「選択基礎」を5名が受講し、特別入試で5名がお茶の水女子大学に進学することとなった。今年度より「選択基礎」受講生に対し、TOEFLの受験を義務化した。また、追跡調査の方法についても検討を行い、一部変更することとした。26年度の「選択基礎」受講希望者の募集に際しては、応募条件を変更した新しい基準で行った。東京工業大学との高大連携教育研究については、2年目として順調にプログラムを実施することができた。特別入試で3名が東京工業大学に進学することとなった。お茶の水女子大、東京工業大学両大学との高大連携の流れ、生徒・保護者への説明内容を検討・整理し、まとめた。